

1982瀬田貞二／落穂ひろい、福音館書店

1971-1975雑誌／母の友に連載 日本の子どもの文化をめぐる人びと

## 第十一章 大正

### 一 大正という時代 (p.227)

1900エレン・ケイ\* (1846-1926) ／児童の世紀 \*原田実 (訳) スウェーデンの女教師

こどもの立場、こどもの生活

### 二 中西屋の絵本・中勘介・野上彌生子 (p.229)

1911-1915 (明治44-大正4) 日本一ノ画噺 全35 中西屋 非水、岡野栄、小林鐘吉

杉浦非水 (1876-1965)

1913 (大正2) ／お伽手工画噺 全5

1912 (大正1) 倉田白羊 (1881-1938) ／孝子画噺

1912 (大正2) 鹿島鳴秋／オハナシ 全5 細木原静岐 (青起)、橋本雅邦、太田三郎、岡野栄

#### ・ある転回

1897 (明治30) 若松賤子 (訳) ／小公子

1912 (大正2) 中勘助／銀の匙、朝日新聞 \*漱石の推薦

1920 (大正9) ヨハンナ・スピリ／ハイヂ 野上彌生子 (訳)

### 三 芳水・夢二・ヨヘイ (p.238)

#### ・少年詩集の出現 (p.238)

1906 (明治39) 日本少年 \*少年世界に対抗して始められた

有本芳水 (1886-1976) 日本少年の主筆になる \*龍子と夢二 (挿絵) が受けた

1914 (大正3) 芳水詩集

島村抱月が、逍遙を立てて、早稲田派をひっぱり

#### ・竹久夢二の出現 (p.242)

竹久茂次郎 (1884-1934) 詩人か画家、こま絵、草画 (そうが)

1909 (明治42) 夢二／春の巻、洛陽堂 カット画集

1913 (大正2) 夢二／どんたく \*少年詩集 大正4.5.6 女子美の笠井彦乃 (しの) と同棲

(詩人・秋山清) 身近に分かる、その詩のなかに、自分と同じような幼い感動のようなものがある

#### ・こま絵のヨヘイ (p.247) こま絵、カット、草画 本文とは関係ない

宮崎与平 (1889-1912) ヨヘエ

### 四 子供之友・コドモ・猿飛佐助 (p.251)

#### ・子供之友発刊 羽仁もと子 (1873-1957)

#### ・コドモ社の創立 画家・川上四郎

・猿飛佐助の出現 立川文庫 横田商会 (日活の前身) 二代目尾上松之助 (1876+1926) 目玉の松ちゃん

### 五 新少女・模範家庭文庫・三重吉・泣菫 (きゅうきん) (p. 259)

#### ・新少女について 夢二の表紙

#### ・模範家庭文庫の発足 夢二画・文

#### ・童話への転針

・詩としての子ども唄

六 高木俊雄・松村武雄・水田光 (p.288)

・童話研究事始め

高木敏雄 (1876-1922) 神話学

松村武雄 (1883-1969) \*五高で高木からドイツ語を教わった

・ストーリー・テリング事始め

水田光 (みつ)

・グリムとイソップ

中島茂一・孤島 (1878-1946)

七 楠山正雄・岡本帰一・清水良雄・水島爾保布 (p.298)

・楠山正雄の業績

楠山正雄 (1884-1950) 大正期の児童文学 (鈴木三重吉、赤い鳥)、単行本の向上は楠山に負うところが多い。

1919 (大正8) 抱月の死と松井須磨子の自殺、芸術座が解散

1919 (大正8) 世界童話宝玉集 楠山正雄 (訳)、岡本帰一 (画)

1920-1921 (大正10-11) 日本童話宝玉集 上下 100篇の説話集成 (中野重治) 便利この上ない本)

1942-1945 (昭和17-20) 日本神話英雄譚宝玉集 六冊

・岡本帰一由来 楠山は画家の選定が上手かった 岩岡とも枝、武井武雄、河口梯二、初山滋、小村雪岱、岡本帰一  
岡本帰一 (1888-1930)

鈴木三重吉と清水良雄 \*三重吉は我武者羅な破滅型

鈴木三重吉 (1882-1936) \*帰一の絵は甘い

清水良雄 (1891-1954) \*三重吉は良雄を好んでいた そして赤い鳥

水島爾保布 (1884-1958) \*ピアズレーに近い

八 大正の子ども (p.310)

・風俗史から 植草甚一 (1908-1979) どんどん焼き、もんじ焼き 池波正太郎 (1923-1990)

川端康成 (1899-1972)、高見順 (1907-1965) どんどん焼きをお好み焼きと呼びだした

・おもちゃと遊び道具 明治の清水晴風 (1851-1913) 大正の川崎巨泉 (1877-1942)

(内田魯庵) 何でも集めてみれば趣味を生ずる

(瀬田) 大正末期に小学生 ベイゴマ、メンコ、剣玉 (けんだま) 日光写真

・戸外の遊び 松田道雄 (1908-1998) 植草甚一 (1908--1979)

知恵の輪 \*テキヤではピンテン 客用のガラス製は壊れるようになっている

つげたり、震災カルタ (木版) 渋沢秀雄 (1892-1984) \*この際という新熟語 地震を契機として、すべて簡略

1927 (昭和2) 島崎藤村 (案) 岡本一平 (画) 藤村いろは歌留多

1927 (昭和2) 野口有情 (案) 岡本帰一 (画) 童謡かるた

・再話の問題 語り言葉から離れた、よそよそしい文章 神話・伝説・童話 (昔話)

・民族周辺の声 高砂、朝鮮、蝦夷、

日本昔話集 上下

アイヌ篇 (金田一京助) 朝鮮篇 (田中梅吉) 琉球篇 (伊波普猷、ふゆう) 台湾篇 (佐山融吉)

・海彼・昔話の紹介

昇 曙夢\* (1878-1958) 奄美大島出身のロシア文学者 \*のぼりしょむ  
世界童話大系 全23 子供のための工夫はない

#### 九 内外昔話の採集 (p.321)

佐々木喜善 (1886-1933) という学生の語る奇怪な伝承を、聞き書きで、簡潔な文語体で書いた  
柳田國男の同伴者、高木敏雄に示唆された 宮沢賢治 (1896-1933) 森口多里 (1892-1984)  
柳田國男 (1875-1962) 民俗学  
1910 (明治43) 遠野物語 110話  
山本鼎と北原白秋 (p.332)

1907 (明治40) 方寸 \*ドイツのユーゲントに習って5年間 通算35冊

・山本鼎 (かなえ) (1882-1946) の発足 白秋 (1885-1942) の妹と結婚

・自由画教育

・北原白秋 (1885-1942) 隆吉 古問屋ふつどいや

・小さな補足 石井幸子 (こうこ) 石井柏亭、鶴三、末の娘

#### 十一 新しい学校 (p.345)

・教育意識の向上

下中弥三郎・芳岳 (1878-1961) 丹波の立杭 (たちくい)

・新しい学校

羽仁もと子 (1873-1957) 自由学園

西村伊作 (1884-1963) 文化学院

・東大セツルメント

・副読本の流行

1925 (大正14) 菊池寛／小学童話読本、全8 興文社

1925 (大正14) 新児童読本、慶應出版部

#### 十二 絵ばなしと漫画 (p.356)

1862 (文久2) ジャパン・パンチ

田口米作 (1864-1903)

北沢楽天 (1876-1955) \*保次

1905 (明治38) 東京パック、有楽社

・漫画という言葉

・新聞連載という形

・宮尾しげを (1902-1982) \*師の一平から「何でもストックして抽斗 (ひきだし) をたくさん作っておけ」

岡本一平 (1888-1948)

#### 十三 二つの全集 (p.368)

・補遺一束

#### 1 大正期の児童文学

・小川未明 (1882-1961)

・千葉省三 (1892-1975)

## 2 キリスト教文学

・山村暮鳥 (1884-1924)

・宮沢賢治 (1896-1933)

## 3 キリスト教の児童書

・野辺地天馬 (1885-1965) \*宣教師

## 4 人道主義

・エロシェンコ (1889-1952) 亡命作家

・秋田雨雀 (1883-1962)

## 5 「赤い鳥」の評判作 三重吉が個人作品集にまとめた

・宮原晃一郎 (1882-1945) 赤い鳥の屈指の寄稿家 \*我は海の子 北欧語を訳す

## 6 翻訳の叢書

1919-1923 (大正8-12) 世界少年文学名作集、全25 精華書院 \*22冊まで確認

佐々木邦/トム・ソーヤー物語 ハックル・ベリー物語 あべこべ物語

茅野蕭々/人形つかひ (シュトルム) 兄と妹 (エッセンバッハ)

野上彌生子/ハイヂ (スピリ\*) \*スイス ゲスタ・ベルリング (ラーゲルレフ)

楠山正雄/不思議の国 家の無い子

前田 晃/クオレ 影絵 (ソログープ) ロシア

木下杢太郎/支那伝説集

## 7 幼稚園

・倉橋惣三 (1882-1955) /幼稚園雑草

・全集合戦

関東大震災 死者9万、行方不明4万

1926 (大正15) 現代日本文学全集、改造社 37巻→50巻→100巻 円本 (えんぼん) 熱

鈴木三重吉/少年文学集

円本全集 百巻 改造社 一冊一円

1927 (昭和2) 世界文学全集、新潮社

1927 (昭和2) 現代大衆文学全集、平凡社

1927 (昭和2) 明治大正文学全集、春陽堂

1927-1929 (昭和2-4) 日本児童文庫 70巻、小学生全集 アルス (白秋の弟・鉄雄が発行)

アルスは共同印刷のテコ入れて更生

巖谷小波/日本お伽噺集 博文館からクレームを負う

1927 (昭和2) 小学生全集 80巻、興文社 菊池寛 芥川

興文社は倒産

(昭和11) 坪田譲治/児童文学の早春

赤い鳥が昭和4年、一時、廃刊となり、子供雑誌が相ついで倒れた。

昭和2年から4年へかけての小学生全集と児童文庫との出版によるのである。…大正7年以来、十年にわたる児童文学が、この時、決算を受けたのである。…昭和初頭の不景気  
文藝春秋(菊池寛)は企画だけで、関わらなかったの、ますます発展した。

#### 追考二篇

##### 一 「小林清親の夢」一軸 (p383)

清親(1847-1915) (画) / 日本修身書入門掲図、金港堂

木下杢太郎(1885-1945)の与えた再評価

1881(明治14) 团团(まるまる) 珍聞 清親ポンチ

1964(昭和39) 吉田漱 / 小林清親、緑園書房

1975(昭和50) 小林哥津(1894-1974) / 清親考、素面の会 \*かつ 清親の五女

\*1977(昭和52) 吉田漱 / 最後の浮世絵師小林清親、蝸牛社 本書に清親考を転載 全部ではない

1894-1895(明治27-28) 日清戦争 殺し絵、血みどろ絵を描かなかった

・「夢」一軸に出会う

・清親の息づかい 小林理子(まさこ) \*哥津の長女

哥津は野上彌生子宅の居候

菊野和夫 \*三女の奈津子(1886-1972)の子 写生帖、8冊 最後の一卷が自伝の絵

##### 二 清水良雄(1891-1954) 画伯への構図 (p.394)

・純粹で丹念なスケッチ 60冊を越す 鈴木三重吉(1182-1936)の赤い鳥の表紙、挿絵を描く

三重吉は癩性(かんしょう)で、酒癖が悪く、すぐ人にからむ。

(良雄) 子供の気持ちのなかに入れるか、どうか分からなくちゃ

・生命の寂寥感伝えるタブロー

「遺作展はするな」と代表作六、七点以外、大小三百数十点が焼き捨てられた。

日本画を描く時、甲斐信枝(晩年の弟子)さんによれば、よほど機嫌のいい朝に限られていました。

「今日は、いい気持ちだから、描くよ。」毛氈をしき、画帖をのべて、きちんと正座して墨をおろし、懸腕自在に気持ちよさそうに全身で描きあげていくのだそうです。私(瀬田)はこれをきいて、儀式だと思い...生への畏敬の、儀式だなど何かしら楽しく微笑ましく、このつつましく生きた画家の心の弾みを思いみたのでした。

#### 付記

索引 \*詳細な索引がある

何か御気付きの点があれば御教示ください。

酒井 雁高(がんこう) 浮世絵・酒井好古堂主人 学芸員 curator

浮世絵・酒井好古堂 浮世絵鑑定家 [浮世絵学] 検索 <http://www.ukiyo-e.co.jp>

SAKAI\_gankow, curator, professional adviser of ukiyo-e

文化藝術懇話会

100-0006東京都千代田区有楽町1-2-14

電話03-3591-4678 Fax03-3591-4678

E-mail: gankow